

「横浜国大 国語研究」創刊に際して

当横浜国立大学教育学部国語科に大学院（修士課程）が創設されて二年目を迎えた。それと歩調をそろえて学会を組織し、その学会誌を刊行しようという企画があった。そのため関東地区教大協二部会に提案し、学会を有する各大学の実態を調査したり、その会則を集めて検討したりして、漸く昨年一月ごろ「横浜国立大学国語国文学会」会則案がまとまった。と同時に、最大の難問である学会運営資金の方も、従来卒業時点で学生が研究室に記念品を寄贈するのを、その基金に振り替えて、昭和五十六年、五十七年の二回分を学会基金として申し受けなどして、当座運営可能な見通しも立った。また、国語科卒業第一期生から現在までの、約一千名の会員を有する「国大國語の会」との関係の話し合いもでき、両者相提携して協力し合うという結論も得た。かくて発足の運びとなった。

昭和五十七年七月十日午後三時より、その設立総会を教育学部大会議室で開いた。当日は旧学部教官を代表して吉田義雄先生、国大國語の会現会長田中章雄氏を来賓に迎え、学部国語教官、四付属国語教官、卒業生・院生・学生の有志、計数十名の参加を得て、会則の審議可決を経て、ここに長年懸案の学会の設立をみたのである。その喜びを分かち合う小宴をもって無事総会は終了し、直ちに活動に入り、ここに創刊号が発刊されることになった。

さて、学会は発足できたが、その前途にはいろいろな困難が予想される。先ずは会員の研究意欲を益々高め、質的に優れた論文の寄稿を広く募集し、年に一回の学会誌の充実をはかり、全国の各国公私立の大学や研究所等の学会誌との交流を盛んなものとしたい。第二には、一人でも多くの志を同じくする会員の加入を得て、支障なき会の運営を図りたい。以上二点を含めて、大方の御指導と御協力とを切願して止まない次第である。

昭和五十八年三月

横浜国立大学国語国文学会代表 石 井 茂